

進路だより

都立永福学園 肢体不自由教育部門
令和5年2月28日 発行
校長 緒方 直彦
No.6 文責 島田裕次郎

日頃から本校の教育に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

○「進路学習会」を行いました（1月23日）

講師に朝霧裕さんをお迎えし、「進路学習会」を行いました。朝霧さんは、シンガーソングライターとして活動をされており、いつも一緒に演奏されている、ギター奏者の奥野裕介さんも御参加くださいました。

「障害のある方の学生生活及び社会人生活について」というテーマで、高等部 C グループの生徒を対象にお話しくださいました。保護者の皆様には、録画を配信いたしました。お話の間には、御自身で作詞作曲（一部、奥野さん作曲）された曲を披露していただき、和やかな雰囲気での学習会となりました。



おはなしの あらすじ

（朝霧さんからいただいた資料から抜粋）

幼少期 ～ 小学校低学年くらいまで

幼稚園の中では、できない事は友達が助けてくれましたが、街に出ると、子ども達は走り寄ってきてくれるのに、大人達からはオバケを見るような好奇の目で見られることがありました。「歩けるほうがいいこと？車いすって悪いこと？」私の中に疑問が生まれました。

自己紹介

私にはウエルドニッヒ・ホフマン症(脊髄性萎縮症)という筋肉の難病があります。日常生活は車いす。現在は「重度訪問介護」という制度を使い、24時間介助の元でさいたま市に一人暮らしをしています。

特別支援学校時代 ～ 就職活動

有名な詩にもありますが、心も体も「みんな違ってみんないい!!」それを教えてくれたのは特別支援学校のクラスメイトでした。楽しかった学生生活。けれど就職活動では「トイレが一人でできること」が必須条件で惨敗。「障害って、私の体じゃなくて社会の方にあるんじゃないの？」階段ばかりの街の中、親からの自立を決意しました。

介助さんたちとの一人暮らし ～ 音楽活動へ


難病の先輩に助けられ始めた一人暮らし。介助さんに支えられ、自分のことを「自分で決めて、生きる」生活は最高に幸せです。外出や、生活、仕事の機会が、障害当事者には「贅沢」「わがまま」と言われることがあります。でも「誰と、どこで、何をして、どう生きたいか」を自分で決めることは、私達の「人間としての権利」です。音楽活動を通して、

このことを伝えてゆきます。

コロナ禍を越えて

コロナ禍の3年で、特に重度の障害を持つ人の日常が非常に見えにくくなりました。「世の中に、いて、いない存在」にされないように、できる手段で生きる姿を世の中に見せていくことも、「私たちが社会を作る」という意味で大事なことです。





「障害をもっている自分から動いていかないと周りは変わっていかない」という言葉にとても心を動かされました。朝霧裕さんの講演を聞いて、社会に対して、自分は「負けない」「頑張るぞ」と前向きに思うことの大切さに気付くことが出来ました。


生徒の感想より



自分から何かを発信していかないと社会は変わらない。」という言葉聞き、自分もどんどん車イスの通りづらい場所でも外へ出て行かないと何も変わらないと思いました。

うちの子が「どこまで」を「誰に」求めていいものか、これからも模索していくことになりそうです。


「自分のやりたいことや進みたい方向に向かって進んでいく意志の強さと、助けてくれる人を見つけてることができる人間力がある方だ」と思いました。障害のない方が聞いても参考になることが多いと思いました。



動画視聴後の
保護者アンケートより

心構えを教えてもらいました！楽しいこともあるし、バッシングなども時にはあるとか……。社会に出るのを臆してはいけないと思いました。

特別支援学校の友達について、一生の仲間とおっしゃっていたのが印象的でした。子どもにも、将来心の支えになるような友人をたくさん作ってほしいです。



講演の様子を録画した動画を、期限を3月10日まで延長して配信中です。御多用の中で見られなかった方はぜひご覧ください。詳しくは、2月6日のマチコミメールを御確認ください。